

# 注目の優良認定制度

## 登録業者育成へ国が協力

### 外部判定委員会も設置

#### 全食り連

(一社)全国食品リサイクル連合会(全食り連、高橋巧一会長)は、食品リサイクル優良業者認定制度の構築に向けて、細部にわたって詰めてきた優良業者育成部会の議論を終え、今夏以降に審査をスタートする見込みとなった。登録再生利用事業者による不祥事が発生する中、食リ業者の優良性を担保する新たな制度として注目を集めそうだ。

登録再生利用事業者は、約8年前から全食り連の中で議論を重ねてきた。特に2016年の食品廃棄物不正転売事案発覚後は、優良業者育成部会を開き、

4月23日には、理事会終了後に第12回優良業者育成部会を開き、

制度の仕組みと運用にかかる最終の議論を終えた。順調に行けば、7月に開催を予定している10周年記念総会以降に、申し込みのあった正会員から順次、審査を行っていくことになる。

この業界自主基準をベースに、再生利用手法ごとの法令順守に関する事項と、全事業項目に共通する事項を整理し、審査人が現地確認を行う際に用いるチェックシートを作成。現地審査の結果をもとに、学識経験者や専門家、排出事業者などからなる外部判定委員会の審査を経て、認定の可否を決定する。

特微的なのは、現地確認の審査を、同業者の審査人が行う点で、「行政が見逃しがちな一見些細なことも、一口の目はごまかせない(高橋会長)」と、優良性を担保する意味でポイントになると期待されている。

認定制度の構築と合が期待される。

制度の構築にあたって最初に策定したのが、その基礎になる業界自主基準で、▽情報公開▽法令順守▽排出事業者との関係づくり▽農林漁業者との関係づくり▽一般消費者との関係づくり▽周辺住民との関係づくり▽国や地方行政との関係づくり▽再生利用用品の質向上▽人材育成▽食品廃棄物の不正転売防止ガイドラインへの対応――の各項目からなる。

この業界自主基準をベースに、再生利用手法ごとの法令順守に関する事項と、全事業項目に共通する事項を整理し、審査人が現地確認を行う際に用いるチェックシートを作成。現地審査の結果をもとに、学識経験者や専門家、排出事業者などからなる外部判定委員会の審査を経て、認定の可否を決定する。

特微的なのは、現地確認の審査を、同業者の審査人が行う点で、「行政が見逃しがちな一見些細なことも、一口の目はごまかせない(高橋会長)」と、優良性を担保する意味でポイントになると期待されている。

認定制度の構築と合が期待される。

事業者の育成・拡大に向けた国の施策と連動する形で検討を進め、モデル審査も実施しながら、環境・農水両省が毎回オブザーバーとして加わる形で、審査項目などを精査してきた。

制度の構築にあたって最初に策定したのが、その基礎になる業界自主基準で、▽情報公開▽法令順守▽排出事業者との関係づくり▽農林漁業者との関係づくり▽一般消費者との関係づくり▽周辺住民との関係づくり▽国や地方行政との関係づくり▽再生利用用品の質向上▽人材育成▽食品廃棄物の不正転売防止ガイドラインへの対応――の各項目からなる。

この業界自主基準をベースに、再生利用手法ごとの法令順守に関する事項と、全事業項目に共通する事項を整理し、審査人が現地確認を行う際に用いるチェックシートを作成。現地審査の結果をもとに、学識経験者や専門家、排出事業者などからなる外部判定委員会の審査を経て、認定の可否を決定する。

特微的なのは、現地確認の審査を、同業者の審査人が行う点で、「行政が見逃しがちな一見些細なことも、一口の目はごまかせない(高橋会長)」と、優良性を担保する意味でポイントになると期待されている。

認定制度の構築と合が期待される。

登録再生利用事業者は、約8年前から全食り連の中で議論を重ねてきた。特に2016年の食品廃棄物不正転売事案発覚後は、優良業者育成部会を開き、

4月23日には、理事会終了後に第12回優良業者育成部会を開き、

制度の仕組みと運用にかかる最終の議論を終えた。順調に行けば、7月に開催を予定している10周年記念総会以降に、申し込みのあった正会員から順次、審査を行っていくことになる。

この業界自主基準をベースに、再生利用手法ごとの法令順守に関する事項と、全事業項目に共通する事項を整理し、審査人が現地確認を行う際に用いるチェックシートを作成。現地審査の結果をもとに、学識経験者や専門家、排出事業者などからなる外部判定委員会の審査を経て、認定の可否を決定する。

特微的なのは、現地確認の審査を、同業者の審査人が行う点で、「行政が見逃しがちな一見些細なことも、一口の目はごまかせない(高橋会長)」と、優良性を担保する意味でポイントになると期待されている。

認定制度の構築と合が期待される。

登録再生利用事業者は、約8年前から全食り連の中で議論を重ねてきた。特に2016年の食品廃棄物不正転売事案発覚後は、優良業者育成部会を開き、

4月23日には、理事会終了後に第12回優良業者育成部会を開き、

制度の仕組みと運用にかかる最終の議論を終えた。順調に行けば、7月に開催を予定している10周年記念総会以降に、申し込みのあった正会員から順次、審査を行っていくことになる。

この業界自主基準をベースに、再生利用手法ごとの法令順守に関する事項と、全事業項目に共通する事項を整理し、審査人が現地確認を行う際に用いるチェックシートを作成。現地審査の結果をもとに、学識経験者や専門家、排出事業者などからなる外部判定委員会の審査を経て、認定の可否を決定する。

特微的なのは、現地確認の審査を、同業者の審査人が行う点で、「行政が見逃しがちな一見些細なことも、一口の目はごまかせない(高橋会長)」と、優良性を担保する意味でポイントになると期待されている。

認定制度の構築と合が期待される。

登録再生利用事業者は、約8年前から全食り連の中で議論を重ねてきた。特に2016年の食品廃棄物不正転売事案発覚後は、優良業者育成部会を開き、

4月23日には、理事会終了後に第12回優良業者育成部会を開き、

制度の仕組みと運用にかかる最終の議論を終えた。順調に行けば、7月に開催を予定している10周年記念総会以降に、申し込みのあった正会員から順次、審査を行っていくことになる。

この業界自主基準をベースに、再生利用手法ごとの法令順守に関する事項と、全事業項目に共通する事項を整理し、審査人が現地確認を行う際に用いるチェックシートを作成。現地審査の結果をもとに、学識経験者や専門家、排出事業者などからなる外部判定委員会の審査を経て、認定の可否を決定する。

特微的なのは、現地確認の審査を、同業者の審査人が行う点で、「行政が見逃しがちな一見些細なことも、一口の目はごまかせない(高橋会長)」と、優良性を担保する意味でポイントになると期待されている。

認定制度の構築と合が期待される。